

# 編集後記

「必要になるって言われるけど、直まきってホントに普及するのかな？」そんな会話を交わした豊里の3人との出会いの日が、直まき栽培を普及していく活動の原点だったと、今でも強く印象に残っています。誰もがそれを特別な技術と思い、収量が安定するための課題が山積していた当時、私にとっては技術革新への挑戦の始まりでした。

以来、雨では場に入れない、芽が出ない、草がひどい…現場では様々な困難と出会い、向き合い、新しい機械体系や栽培技術も検討する中、地域一丸となって直まきの定着を推し進めてきました。中でも、「雪国岩見沢・乾田乾籾播種法」の確立は、本当の意味で経営規模拡大や労働力不足を手助けする技として、「直まき栽培」が生まれ変わるための試練でした。

7年間、岩見沢地域を担当する普及指導員として活動を行ってきましたが、「J Aいわみざわ水稲直まき研究会」が発足5年を迎え、全道一の直播団地形成に関われたこと、このような技術資料編纂の貴重な機会を頂けたことは、ひとえに農業者、J Aいわみざわ職員、各関係機関のご厚情とご支援の賜物と、心から深く感謝申し上げます。

本資料は、軽トラック、トラクタ、鞆への携帯版(ハンドブック)としました。お役に立てて頂ければ幸いです。

## <執筆者>

J Aいわみざわ水稲直まき研究会	会	長	新 田 慎太郎
J Aいわみざわ米穀部米穀課	主	査	須 田 信 吾
J Aいわみざわ米穀部米穀課			江 戸 知 明
空知農業改良普及センター	調整係	実務研修員	澤 田 拓 也
空知農業改良普及センター	第二係	普及職員	三 宅 平
空知農業改良普及センター	調整係	専門普及指導員	齊 藤 義 崇 (編集長)

## 米づくり：目指せ！省力・多収・低コスト 水稲10俵どり指南書 Vol.3

発行日：平成25年3月  
 発行：J Aいわみざわ地域農業振興センター  
 監修：空知農業改良普及センター  
 印刷：空知印刷株式会社 岩見沢市2条東2丁目2-5  
 TEL (0126) 22-4343



※執筆者の許可なく無断転載・複写・改変・再配布することを禁じます。  
 ※この資料に掲載している農業・肥料・技術は平成25年1月現在の時点で、登録実証されたものです。  
 最新情報に注意して、ご利用ください。

**岩見沢、三笠の農家**

# 水稲直播 普及へ研究会

【岩見沢、三笠】岩見沢や三笠の農家が三月、種もみを田へ直接まいて栽培する「水稲直播」を本格的に普及させるための研究会を設立する。同様の圃場は美田や妹背牛にもあるが、道内最大のコスト産地・岩見沢を含む地区でも発足することで、直播拡大に努めようとした。(阿部宏史)

設立するのは「岩見沢、おまかせたい考え、地区水稲直まき研究会。直播はビニールハウス(仮称)で、講習会や、田を育てる労力やコストを削減、高効率化する農家同士の情報交換などが期待されている。空知農業改良普及センターも三年前から、岩見沢では北村豊里や上幌町の農家が五年ほど、前からの取組んでおり、

昨年まで七十町当たり一万亩前後のコスト削減効果などが期待できた。同センターが普及組織の設立を農家に促した。同センターの高橋義典普及員は「直播は、農地を畑や芋や野菜栽培などで収入を伸ばしたい人にも有効。本格的な普及を組織したい」と話している。

今月十九日に、いわみざわ農協日課会館で関心がある農家向けの講習会を行い、三月二日に研究会の設立総会を開く。問い合わせは同農協米穀課まで(16:00~20:00)。

来月設立 50戸、100%目標

2009.2.14北海道新聞記事



# 直まさ傑作選

## 川柳の部

### 特等

本当に

片付けていい

余り苗

今井作光

### 入選

出なくても

出るまで待とう

出芽まで

サワ拓

ヒエの数

こつそり数える

苗立数

スーさん

硫安の

数え間違え

確信犯

よしよし

麦じゃない

麦じゃないよと

また硫安

新田慎太郎

直まさの

先駆けとなる

大地の星

百姓K

### 次点

大丈夫

伝えた圃場に

夕もくる

よしよし

また会った

あいつと同じ

巡回路

スーさん

気になって

ほじくりかえす

出芽時期

新田慎太郎

## 格言の部

失敗は、成功の元

水上孝志

さらなる技術の高みへ際限なき技術革新と、

コストカット目指す

柳谷崇裕

一に我慢、二に我慢、三、四がなくて、五に我慢

E戸

